

試食会における食べ物と家族との関係

ポリー・ザトラウスキー*

1. はじめに

食べ物と家族との関係は、従来の会話分析では、実際に家族が食べている会話に焦点がおかれてきた。しかし、家族とではなく、家族以外の人と食べながら、食べ物と家族について話すことが多く観察される。本研究は、性(FFF、FFM、FFM、MMM)と年齢(30歳未満と30歳以上)で組み合わせた、3人の友人同士からなる試食会のビデオを対象にする(ザトラウスキー2011、2013)。試食会は、日本料理、セネガル料理、アメリカ料理の3コースを食べながらそれについて話したり、評価したりする会話である。分析に際して、a.食べ物と家族の話は何がきっかけで始まるか、b.食べ物と家族との関係についてどのような話をするか、c.食べ物と家族の話は参加者の相互作用にどのように影響するかという3つの観点から考察する。

2. 先行研究

食べ物についての話は、参加者の文化、社会的なグループ(social group)で何が重視されるかを示す(Bourdieu 1984)。言語の社会化は、子供とその他の初心者(大人も含む)が言語とその他の記号論的な様式(semiotic modalities)を通して社会・文化的な能力を習得する過程であり(Ochs & Shohet 2006: 36)、食事をしている場面等での言語の使用に基づいて研究されてきた(Kulick & Schieffelin 2004; Ochs & Schieffelin 2006; Burdelski 2006; Sztatowski 2014; その他)。食事の時間(mealtime)

は世界に関する社会、道徳、局所的な理解を作り出す豊かな舞台である(Ochs, Pontecorvo, & Fasulo 1996; Ochs & Shohet 2006)。アメリカの家族では何を食べるか、一緒に食べるかどうか、一緒に食べる場合にはどのような話をするかの研究もある(Ochs & Beck 2013)。このように、家族が食べている時に食べ物に関する話において社会化、食べ物の嗜好、食べる習慣、家族の役割と関係が相互作用の中から生まれる。しかし、家族以外の人と食べる際に食べ物と家族についてどのように話すのかはほとんど研究されていない。

3. 分析

本研究の資料では、年齢との関係では、30歳未満の参加者は、自分の家で子供の頃から食べてきた食べ物の味、匂い等を思い出すが、30歳以上の参加者は嗜好の変化について自分と家族の話をするが見られた。食べ物の嗜好はそれぞれの家族で子供の頃から食べている物の、味、匂い、舌触り、見た目等の経験を通して作り上げられるが、人生の中で嗜好の変化があった場合、育った家族で食べた食べ物と比較・対照することがある。

食べ物と家族との関係の話のきっかけは、試食会で食べている食べ物の味、匂い、料理全体とその料理一般の特徴、試食会の未知のもの同定(identification)¹や評価、どの道具で食べるべきか、食べる順番等の悩みであった。食べ物と家族の話をする中で、食べ物の同定や評価を支持したり、自分の行動を説明したりすることがあった。食べ

* ミネソタ大学

物と家族についての話の内容は【表 1】にまとめたように、おばあちゃん、祖父、お母さん、父親、甥け、子供、自分の家の味等との関係があった。

表 1 食べ物と家族との関係について
どのようなことを話すのか

家族との関係	JPN2:MMF<30; JPN3:FFF<30	JPN1:MFM>30; JPN11:MMM>30
a.(お)ばあちゃん、ばあさん、祖父のこ	JPN2:f のおばあちゃんの料理; E と f のおばあちゃんのおぼろジュース; JPN3:h のおばあちゃんが梅を天日干ししたときの匂い(2)	JPN11:G のばあさんが焼いた食パンの上にひじきを乗せて食べた話; H のばあさんが砂糖をよくしゃぶっていた話(3);Gの祖父が卵焼きが好き(3);Hのばあさんがぼそっと喋る言葉が面白い話
b 母親、親の嗜好変化		JPN11:F の母親が辛いものを作らなかったが好きになった話(4);F と H の母親がコーヒーが好きになった話(5);Gの親の嗜好性が変わらない話(5)
c. 食べ物の神話と親の甥けに関する話		JPN1: ひじきは何にいいかの神話; 子供の頃 A がひじきを食えと言われた話; C のうちでひじきがたくさん出てきた話; b のうちでひじきよりわかめが出た話; 子供の頃 A が全部食べるように言われた話(7)
d. 子供の頃の話	JPN2: 小さい時の家のお箸、フォーク、スプーン等の使い方・食べ方(6)	JPN11: 小学校で食べる順番を言われた話; 先にデザートを食べると先生に怒られた話
e. うちの味、箸等の食べ方	JPN3: 自分とその他の参加者の家で作るうどんの材料と味(1)	JPN11:F の子供が甘いカレーを食べる話; JPN1:C の家族は皆お箸が大事である話

(1)は、30歳未満の試食会であるが、日本料理のきつねうどんの中の油揚げについて話している。184g と 187g で g が普段食べているものの味について話すのが難しいと言ったことに対して i は自分のうちの味付けと比べるしかないと言発話して

(189i-190i)から話を始めている²。

(1) Food10-JPN3-ghi (FFF<30) 自分とその他の参加者の家で作るうどんの材料と味(7:34-8:11)日本料理

184g なんか、味について話し合うんだよねえ。

185h うん。

186i うん。

187g 普段食べてるものだと逆に難しくない。

188i うん。

(5.2) ((g: 油揚げを食べている、h: 椀を置く、i: 椀を置き、ひじきを取っている))

189i なんか自分の、うちの味付けと比べてとしか=

190i @なんとも言えない。@

191h うん//うん。||

192g //挙げるな||ら=

193g なんか、油揚げが@甘い。@

194i~ あー食べてないまだ。

(4.4)((g: うどんに箸を付けている、h: ひじきを集めている、i: 椀を持ちながらうどんを食べている))

195g~ てか油揚げ入ってないうちのは。

196h あそうなんだ。

197g 入っ//てる?|| #g→h

198i //普通||は油揚げはない。

199h 入ってる。

200g 甘い? #g→h

201h (1.8)ん、//₁・こういう味ではない。・||

202i //₁・こういうんじゃ ||//₂ない。・₂||

203g //₂ふ₂||ーん→。

204g 油揚げ入ってるんだ。

205g~iii³んとこ入ってる?油揚げ。

206i 気分。

g は 193g で油揚げが甘いと否定的に評価した後、h と i のうちでの味を確認し、同意を得ようとしている。このようにうちの味は試食会で食べている物の味の判断基準として用いられている。

(2)は、同じ試食会からの例であるが、セネガル料理のパフィラ (ハイビスカスジュース) については g が 851g でおいしいと評価することに対し、852i で i が匂いを否定的に評価する。次に、857h で匂いから h がばあさんの梅干しの匂いを思い出し、家族の話をしている。

(2) Food10-JPN3-ghi (FFF<30) h のおばあさんが

梅を天日干ししたときの匂い(27:43-28:19)セネガル料理 (匂いからのパフィラの同定)

851g このジュースおい@しい。@

(0.5)((g: パフィラを飲む、i: パフィラの匂いを嗅ぐ))

852i (あたし) 匂い駄目だな。

(1.6)((gi: パフィラの匂いを嗅ぐ))

853g 匂いする?

854i うん。

(1.8)((gi: パフィラの匂いを嗅ぐ))

855g 匂いする? #g→h

(1.7)((g: パフィラを右手でhの方へ出し、嗅がせる、i: パフィラの匂いを嗅ぐ))

856h あー、あ、あのねえ、

※「ね」で右手(掌内前)の人差し指でgを指すことで、何かを思い付いたことを表す。

857h ばあちゃんがー、梅干を作るときにう、梅を天日干ししたときの匂い。 ※「が」で両掌を合わせる。「天日干しした」で両手(胸上、指開伸)の掌を前下に向けることで、天日干しを表す。「匂い」の「い」で再び右人差し指でgを指す。

858g いやうちの、//うちでも梅一、//梅干つ作ってるけどさ、||

859h //がする。||

860h //しその匂いっ

て//いうか、

861g 梅はもうちょっと匂い違うよ=

862g どっちかというとしその//匂いじゃん?||

863h //しその//方か。

※「方」で右手(掌内前)の人差し指でgを指す

864g しその//匂い?||

865h //そうか、||赤じそも一緒に干すから、

※「一緒に」と「干す」それぞれで右手(胸上、掌内)を左下へ1回振る。

866h しその方//の匂いか。||

867g~ //しその//匂いじゃない?それ。

868i //ふーん。||

869h //あたししそ、||しそ//ジュース?||

※嗅がせてもらうためにgの方へ顔を近付ける

870g //え、これもし||かして梅?

梅?※パフィラを右手でhの方へ出し、嗅がせる

871h (1.2)梅、えー?

(2)の家族についての話では857hでhが「とき」の修飾節の中で家族に触れた後、gは858g-867gで自分のうちの梅干しに基づいて梅ではなく、しその匂いだと主張してからgとhはしそ、梅等でパフィラを同定しようとしている。このように、

30歳未満の試食会では家族についての話は料理の匂いや同定を支持するために用いられている。

一方、30歳以上の試食会では、食べ物と家族についての話が長くなっている。(3)はセネガル料理が終わったところである。

(3) Food10-JPN11-FGH(MMM>30) Hのばあさんが砂糖をよくしゃぶっていた話→Gの祖父は卵焼きが好きな話(31:27-32:26)セネガル料理を食べ終わったところ

1063H うん、僕は、三つともうまかった。

1064G うん。

1065G ちょっと総合的に甘い、//甘いかなと思うけど。

1066H //うん。||

1067G 日本食って確かにそんなに甘いもの、

1068H 甘いものないっすよねえ。

1069H なんで砂糖、

1070G 味噌醤油、//ベースだと思ふ。||

1071H //砂糖が貴重だから、||

1072G うーん。

1073F うーん、デザートしかないかなあ。

1074H うーん。

1075G 労働があれだからなあ。

1076H @うちの、ばあさんとかは@あさつき言ったけど、

1077H 氷砂糖よくしゃぶって//ましたよ。||

1078G // {フフフフ} ||

1079F // {フフフフ、フフフ} ||

1080H // {ハハ、ハハハハハ} ||

1081H 砂糖じゃーつって。

1082F (3.3) //最近見ないな。|| ※「最近」で頭を右へ傾けながら首を左へひねる

1083G //昔の人の//思い入れかな。

1084G~(1.2)うちの親父は卵焼き大好きいまだに。

1085G お一羽だーってたぶんこう//昔の記憶が||

1086H //1 うんうんうん。||

1087F //2 {ハハハ} 2||

1088G //2 羽、イコールご馳走2||

1089G @っていう//イメージが残ってる//みたい。@

1090H //うんうんうん。||

1091H (1.9)@でもうちのばあさんは、@

※G:パフィラを飲む

1092H 砂糖イコールご馳走ってどう@いう、

//状況だろう。@||

1093G // {フフフフフ} ||

1094F {フフフ}

- 1095G @そういう、//世代、@団塊をはるかに超えた世代がそうでしょ、||
 1096H // {フフフフフフ} ||
 1097H //フフフフフ} ||
 1098G //団塊の上の方は||きっと、**卵焼き**とか**バナナ**とかあるじゃないですか。
 ※「卵焼き」と「バナナ」で胸の前でそれぞれ1回左手でビートを打つことで、団塊より上の世代のご馳走を列挙する。
 1099H うんうんうん。
 1100F いやでも、戦争のときとかね、
 1101F **砂糖**貴重だったでしょ。
 1102H うんうん//うん。||
 1103G //超**貴重**ですよ。
 1104G 甘いものなんてない時代ですからね。

1063HでHがセネガル料理の3つの皿を好意的に評価した後、1065GでGが「甘い」と否定的に評価する。その後、GとHはそれと比較し、日本料理一般は味噌醤油ベースであること、砂糖が貴重であることのためにそれほど甘くないことを同意し合う。そこでHのおばあさんが氷砂糖をよくしゃぶっていたこと（1076H-1081H、1091H-1092H）、Gの父親はいまだに卵焼きが大好きだということ(1084G-1089G)を砂糖が貴重だということと関連づける。また、両方の親戚にとって甘いものイコールご馳走ということを拡大して団塊の世代全体に広げて話している。このように試食会で食べたセネガル料理の評価と日本料理一般の特徴、砂糖が貴重だということから二人の参加者の親戚の個人的な側面にまで話が広がっていく。

(4)は(3)と同じ試食会からの例であるが、GとHがセネガル料理のカレー（マフェ⁴）が甘いと評価した後、Fは自分の母親の味付けと関係づけ、辛いものが苦手だと述べている。

(4) Food10-JPN11-FGH(MMM>30) セネガル料理のカレーが甘い→Fの母親が辛いものを作らなかつたが、好きになった話(20:44-21:23)セネガル料理（マフェ）

- 703G うん、ちょっと、カレーもほのかになんか、甘くなって//きたね。||
 704H //うん、||甘いね。

- 705G うん。
 706G ちょっと甘じよ**っ**ばいかな。
 707F (1.2)僕は母親があんまり、辛いものを作らなかつたから、
 708H //うんうん。||
 709G //ふーーん。||
 710F 辛い**結構**苦手なんですよ。
 711H うーーん→。
 712F **今**はね、
 713F **母親**すごい辛い**の好き**になつちやつて。
 714G //へえー。||
 715H //ふーー||ん→。
 716F **作る**んだけど。
 717H その、味の、嗜好**の**変化**つて**結構**面白**いんじゃないですか。
 718F //何なんですかね。||
 719H //ある程度、ね、||
 720G //ふーー||ん。
 721H 年-、年代を、経て、 #年-=ねん-
 722G (1.5)えそれは、(2.0)きっ**か**け**は**何か考えられることあるんですか=
 723G たとえば、韓流スターにはまり、
 724H // {フフフフフ} ||
 725G //韓国に行くには、鍛え||なければ（ならん=
 726G ようになつて）てしまう。
 727F // {フフフフ、フ} ||
 728H // {フフフフフフ} ||
 729G こういうの好き**つて**言わ-、言わないと=
 730G ヨン様に怒られるとか、
 731H //もうそういうのは**き**りした理由です?||
 732G //そういう、@動機、||じゃない?@

712F-713Fで話題がカレーの味からFの母親はなぜ辛いものが好きになったかという味の嗜好の変化に移る。(5)は(4)の続きであるが、今度はFとHの母親がコーヒーが好きになった話、Gの親の嗜好性があまり変わらないことについて話す。

(5) Food10-JPN11-FGH(MMM>30) FとHの母親がコーヒーが好きになった話→Gの親の嗜好が変わらない話(21:24-22:36)セネガル料理

- 733F いや色々あつて、
 734H //うん。||
 735F //昔は||**コー**ヒー**なんか**全然飲まなかつたのに、
 736G //うん。||
 737H //うん。||

- 738F 今、毎日のように飲んでますね。
- 739G ふーん。||
- 740F //なんかあつ||たんでしょうね。
- 741H それは、(1.0)あでもうちもそうかなーうちの親も。
- 742H うちの親は、ほんとにそれがきっかけかどうか、わかんないけれども=
- 743H よく言ってるのは、家族で北海道旅行したときに、
- 744G うん。
- 745H なんかわかんけど=
- 746H~一人で、ちょっとぶらっと出かけて、//うち||の母親が、
- 747G //うん。||
- 748G うん。
- 749H で一、(1.2)あの喫茶店に寄って、
- 750H そこで入ったコーヒーが、ものすごくおいしかったって言うんだけど、
- 751H それは別に、コーヒーが、というよりも=
- 752H その//雰囲気||がたぶんよかったんだと思うんだけども、
- 753F /うん。||
- 754G 家族ほうって、//一人で、喫茶店に入ってみたいう行為が、||面白かった。
- 755H // {フフフフ}、そう。||
- 756H うーんおそらく、
- 757F うん。
- 758G で、それからというもののコーヒーが、
- 759H いや、そんなに、なんていうかもものすごく好きになったわけじゃなくて、
- 760H 飲むようになった。
- 761G うん。
- 762F うん。
- 763H うーん。
- (2.0)((G:マフェを食べている; H:パフィラを飲んでい
る))
- 764G うちの親の嗜好性あんまり変わらないね。
- 765H (1.4)昔からー。
- 766G うん。
- 767G 酒も飲むの変わらないし。
- 768H //うーん。||
- 768G //減らせよって||言った
けど=
- 770G 減らないし。
- 771G 辛いものも、そうだな辛いものとか焼肉とか、コーヒーとか、
- 772G 親父は煙草やめたけど、
- 773G それぐらいだな。
- 774H //うーん。||
- 775G~ //食生活、||変わってないうちは。
- (4)と(5)のように、30歳以上の試食会では食べているもの(カレー)がきっかけで参加者2、3人が食べ物を通して親の個人面について話すことが見られた。
- 次に、親の躰け、食べ方の習慣に関する話で食べ物と家族について話す例に移る。30歳未満の試食会では食事のマナーについての話が曖昧な話であった。(6)はアメリカ料理のマカロニをfがフォークで、Eが箸で食べたが、どの道具で食べるべきであるかが話題になっている。
- (6) Food10-JPN2-Def(MMF<30)どの道具で食べるべきか→小さい時の家のお箸、フォーク、スプーン等の使い方・食べ方(40:54-41:45)アメリカ料理
- 1436f なんかさ、
- 1437f 普通にここらへんフォーク@使っちゃったけどさ、@
- 1438E うん。
- 1439f~うん、なに使うのかっていうのも、重要なかなー、もしかして。
- 1440E // (君ら。) ||
- 1441D //お前||@箸かよー。@ #お前=E
- 1442f いいと思う。
- 1443D // {アハハハハハ} ||
- 1444E //西洋かぶれですねー。||
- 1445f~いいと思う、箸で。
- 1446f 我が道を行くべきだよ。
- 1447D // {アハハ} ||
- 1448E //いやいや||いや。
- 1449E 箸のが取りやすいんじゃないの。
- 1450f ん、でもこれはね、 #これ=マカロニ
- 1451f スプーンで取るべきかねー、
- 1452f フォークで取るべきか、
- 1453E //うんうん。||
- 1454f //悩む||ところだね。
- 1455E ちっちゃい頃だったらー、
- 1456E まず家の箸だったらー、 #家=いえ
- 1457E こう先ちょ細いから、
- 1458E こうやって刺して食べてた。
※箸で刺して食べるフリをする
- 1459f {ウフフ}
- 1460E やってなかった? ※E:「て」で右手の箸でDを指す

- 1461D @わかる。@
 1462E わかるっしょ。
 (3.0)((D：マカロニを食べている、E：右側にある鞆の中からハンカチを出す、f：マカロニをフォークで刺す))
 1463f フォークでもできた。 ※一個のマカロニを刺したフォークを上に向ける
 1464E フォークでも食べれた？
 1465f うん、ほら。{アハハ}
 ※フォークで刺したマカロニを見せる
 1466E ほら。
 1467D あ。
 1468D ってかむしろフォークでやるのか。
 1469f //₁{フフフ}||
 1470E //₁@いやいや@||いや=
 1471E //₂箸でやる。||
 1472f //₂(箸箸||箸。)
 1473E で、なんかさー、
 1474E こう両方こう繋いでさ、
 1475E こうやってこうやってこうやって=
 ※それぞれの手で持った箸の先を合わせ、その後箸を上下に動かす
 1476E 遊んでなかった？
 1477E やってない？
 1478f ちょっとやった。
 1479E やったでしょ。
 1480f うん。

(6)のどの道具を使うべきかがきっかけで始まった話はフォークでも箸でもいいことや小さい時の家での食べ方へと展開し、食事のマナーが曖昧なままで終わってしまう。

一方、30歳以上の試食会では躱げられたことがはっきりしている。(7)ではセネガル料理のラッハ(甘いヨーグルトとミルクがかかった、白いトウモロコシの粉、砂糖、レーズンで作るプリンのようなデザート)を残してもいいかどうか話している。

(7) Food10-JPN1-AbC(MFM>30) 子供の頃 A が全部食べるように言われた話(33:25-33:50)セネガル料理

- 1415A (1.8)ヨーグルトはでもそんなに違和感、
 1416b すごい甘いんだけど。
 1417C おおすごい。 ※身を乗り出しながら b のラッハの椀(空?)の中を覗き込む
 1418C (1.4)食べ、食べ切んなきゃいけないの？

- 1419b いや？
 1420C (1.6)だ//ってほら、||
 1421b //好きじゃない||ものは食べ切ん//なくてもいいんじゃない||の？
 1422C //だってほら、||
 ※自分の椀(ラッハ)を b に見せる
 1423b うん、レーズンだから=
 1424b やめ//たんでしょ。||
 1425C //レ、レーズン、||
 1426A あー//そ、||
 1427C //レー//ズンを
 見てるうちにどんどんどんどん、
 1428A もう駄目だ、
 1429A あーの全部食べるようにお、こう、親からいつも言われてるんで=
 1430A 今でも {フフフ}、その癖が。
 1431C それわかります。
 1432A .h 残さないよ、
 1433A //癖です。||

b はラッハが甘くて(1416b)、C はレーズンが入っている(1422C-1427C)ため残したいが、それに対して A は 1428A-1433A で親に全部食べるように言われたため残せない癖だと言う。C は残すにしても A の発話に対して 1431C で「それわかります」というように親に言われていることに対して理解していることがわかる。このように 30 歳以上の参加者は躱げがはっきりしていると考えられる。

4. まとめ

試食会での食べ物と家族についての話は、試食会で食べているもの味、匂い、舌触り、見た目、食べる順番、食べる道具等がきっかけで始まり、相互作用を考察したところ、試食会で食べている食べ物の同定と評価を支持し、皆が楽しむために用いられていることがわかった。30歳未満の参加者より 30歳以上の参加者が食べ物と家族の話をするが多かった。30歳未満の参加者は家の味を基準にして現在試食会で食べているものを同定したり、評価をしたりし、おばあさん、母親等を料理人として話すことが観察された。一方、30歳

以上の参加者は家族のメンバーを自分と同じ人間であるという側面から嗜好の変化や食べ物の神話等について話していた。さらに、食べ物と家族との関係について話すことは、自分の生まれ育った環境、親戚に関する情報やその人の個人情報が見えなくなるため、自分がどのような人間なのかというアイデンティティと密接な関係があった。

謝辞

お茶の水女子大学の高崎みどり教授、古瀬奈津子教授、香西みどり教授、十文字学園女子大学の星野裕子講師にお世話になり、感謝申し上げます。資料収集、資料作成等にご協力いただいた山田さおり氏、原田彩氏、小島美咲氏、秋山雅一氏に感謝いたします。試食会の参加者にもお礼申し上げます。本研究は2009～2011年度ミネソタ大学の科学研究費補助金と2012～2013年の博報財団第7回「日本語海外研究者招聘事業」による招聘研究の成果の一部である。

文字化資料の表記方法 (ザトラウスキー1993、2011、2013; Szatrowski 2004、2010、2014)

- 。 下降のイントネーションで文が終了することを示す。
- ? 疑問符ではなく、上昇のイントネーションを示す。
- 、 文が続く可能性がある場合のごく短い沈黙を示す。
- 一 長音記号の前の音節が長く延ばされており、一の数が多きほど、長く発せられたことを示す。
- // || //と||はそれぞれ同時に発話された発話の重なった部分の始まりと終わりを示す。同時に発話された発話両方に示す。複数の重複を区別するのに下付数字 (/# #||) を用いる。
- (0.5) ()の中の数字は10分の1秒単位で表示される沈黙の長さを示す。
- () ()の中の発話が記録上不明瞭な発話を示す。
- @ @ @と@の間の発話が笑いながら発話されることを示す。
- ・ ・ ・の間の発話が小さな声で発話されることを示す。
- {カタカナ} { }内のカタカナによって笑い、咳ばらい等の音を示す。

- .h 耳に聞こえる吸気を示す。
 - = ポーズがなくても字数のため改行しないといけないことを示す。前方の発話の終わりに示す。
 - 途切れた音を示す。(食べ-食べ物)
 - ～ 倒置
 - # 発話の意味等に関する説明。
 - ※ 発話と同時にされる非言語行動の説明。(() 発話間に行われる食べ物行動等に関する説明。
- 相づち的な発話は前の発話の終わりで始めるように右へずらしてある。

註

- ¹「同定」とは、食べたり、飲んだりしている物についてそれが何か、どのようなか(味、匂い、舌触り、見た目等)を認定する行為である。
- ²文字化資料の表記方法に関しては稿末参照。食と家族の話のハイライト、食べ物の評価を下線、同定と話題を四角で囲んで示す。
- ³iii は i の 3 モーラからなる名前を表している。
- ⁴マフェは、セネガル料理であり、ジャスミンライスの上に鶏肉、ニンジン、ジャガイモをピーナツバターで煮たものがかかっているカレーのようなものである。

参考文献

- Bourdieu, Pierre. 1984. *The habitus and the space of life-styles. Distinction: A social critique of the judgement of taste*, translated by Richard Nice, 168-225. Cambridge, MA: Harvard University Press.
- Burdelski, Matthew. 2006. *Language socialization of two-year old children in Kansai, Japan: The family and beyond*. University of California at Los Angeles: Ph.D. dissertation.
- Kulick, Don, & Bambi B. Schieffelin. 2004. *Language socialization. A companion to linguistic anthropology*, ed. by Alessandro Duranti, 349-368. Oxford: Blackwell.
- Ochs, Elinor & Margaret Beck. 2013. *Dinner. Fast-forward family: Home, work and relationships in middle-class America*, ed. by Elinor Ochs & Tamar Kremer-Sadlik, 48-66. Los Angeles: University of California Press.
- Ochs, Elinor, Coltilde Pontecorvo, & Alessandra Fasulo. 1996. *Socializing Taste. Ethnos* 61.1-2:7-46.
- Ochs, Elinor, & Bambi B. Schieffelin. 2006. *The impact of language socialization on grammatical development. Language, culture, and society: Key topics in linguistic anthropology*, ed. by Christine Jourdan & Kevin Tuite,

- 168-189. Cambridge: Cambridge University Press.
- Ochs, Elinor, & Merav Shohet. 2006. The cultural structuring of mealtime socialization. *New Directions for Child and Adolescent Development* 111 (Spring): 35-49.
- ザトラウスキー、ポリリー1993『日本語の談話の構造分析—勧誘のストラテジーの考察—』くろしお出版.
- Szatrowski, Polly, ed. 2004. *Hidden and open conflict in Japanese conversational interaction*. Tokyo: Kurosio Publishers.
- Szatrowski, Polly (ed.) 2010. *Storytelling across Japanese conversational genre*. Amsterdam: John Benjamins.
- ザトラウスキー、ポリリー2011「試食会の言語・非言語行動について—三十歳未満の女性グループを中心に」『比較日本語学教育研究センター研究年報』7, pp. 25-36. (お茶の水女子大学)
- ザトラウスキー、ポリリー2013「食べ物を評価する際に用いられる『客観的語句』と『主観的語句』について」『国立国語研究所論集』5, pp. 95-120.
- Szatrowski, Polly, ed. 2014. *Language and food: Verbal and nonverbal experiences*. Amsterdam: John Benjamins.